

消 防 団

四 日 市 市 消 防 団 の 沿 革

江戸時代	各村に火の番所が設けられ、五人組という自治制度のもとに防火、消防活動が行われていた。また、江戸や城下町には町火消が組織されていた
明治19年	四日市に初めて火防組が組織される 消防夫59人
明治20年	火防組12組消防夫864 人となる
明治24年	火防組が消防組と改名される
明治25年	消防組23組消防夫1,309 人となる
明治27年 2月	勅令をもって消防規制が公布される 消防組規制により、消防組の全国的な統一が行われる
明治28年 12月26日	各町自警消防組を統一し、新たに四日市消防組として発足 四日市町消防組 第1番組川原町、末永、浜一色（橋北地区） 第2番組西町、久六町、比丘尻町、堅町 南町、北町、上新町（共同地区） 第3番組中町、境町、八幡町、中新町 四ツ谷新町、南新町、（同和地区） 第4番組浜町、北条町、下新町、新町（同盟地区） 第5番組蔵町、北納屋町、中納屋町 桶ノ町、袋町、高砂町、稲葉町、南納屋町（港地区） 第6番組浜田、赤堀（浜田地区） 配置人員 組頭1人 小頭6人 消防手 193人 合計 200人 配備器具 ポンプ6 大水桶12 小水桶64 梯子6 鷹口31 刺又6 釣13 斧6 大縄6 纏 6 旗6 高張提灯6 弓張提灯62 消口札6
明治30年	市政実施とともに四日市消防組も市に引き継がれる
大正6年 10月	第5番組（港地区）に初めてガソリンポンプを配置
大正12年 1月	全ての組にガソリンポンプを配置
大正15年	初めて自動車ポンプを購入し、組頭直属のもとに自動車隊が登場
昭和5年	市域の拡大に伴って第7番組（海蔵地区）第8番組（塩浜地区）が本市消防組に編入
昭和7年	本市上水道が完成し、消火栓355基を設置
昭和14年 1月	政府は準戦時体制から戦時体制に切り換えを強行し、警防団令を發布した
昭和14年 4月1日	昭和6年頃に結成され、防空活動を行っていた防護団と消防組を合体し、四日市警防団を設置した 警防団は消防組と同一区画の8分団とした 定員 622人（内本部消防部16人） 分団に警護、消防、救護の3部を置く 初代警防団長 九鬼紋七氏
昭和16年	本市が富田町等2町3村を併合
昭和16年 10月3日	富田、富洲原両町の警防団を合体し、四日市北警防団を結成 四日市北警防団は、本部を富田警察署に置く 6分団 定員 363人 自動車ポンプ2台 ガソリンポンプ4台 腕用ポンプ3台 羽津、常磐、日永の各村警防団は四日市警防団の第9.10.11分団として本市に引き継がれた
昭和17年 8月	四日市警防団第5分団（港地区）に海上部を設置
昭和18年 6月	海上部を四日市警防団海上分団とし、発動機船2、消防艇1、短艇4を装備した
昭和18年	四郷、内部両村が併合され四日市市には2警防団20分団になる
昭和22年 9月	新消防団令に基づき、四日市市消防団と四日市市北消防団が組織され再出発した 四日市市消防団 本部と7分団 725人編成 初代団長 九鬼紋十郎氏 四日市市北消防団 富田、富洲原地区を区域とする 6分団 225人編成 初代団長 大野正平氏
昭和23年 2月29日	消防組織法の施行により、四日市市消防団と四日市市北消防団を四日市市消防団として一本化した 初代消防団長 九鬼紋十郎氏

昭和24年 8月11日	2代目四日市市消防団長に大野正平氏就任
昭和26年 4月1日	四日市市消防団は消防団本部と橋北、港、中部、海蔵、塩浜、羽津、常磐、日永、四郷、内部、富田、富洲原、海上の13分団 四日市市消防団の定員 716名
昭和27年	四日市市消防団の定員 718名
昭和28年	四日市市消防団の定員 646名
昭和29年 3月	小山田村が合併され、小山田村消防団が四日市市消防団に編入
昭和29年 7月	市町村の合併により、河原田、神前、川島、桜、梶、三重、大矢知、八郷、下野の9分団が増加し、23分団 四日市市消防団の定員 1,156名
昭和32年	市町村の合併により、保々、水沢の2分団が増加し25分団とした
昭和35年	四日市市消防団の定員 1,258名とした
昭和39年	中部分団を廃止し、四日市市消防団の定員の見直しを実施24分団1,258名→427名
昭和53年 2月28日	大野正平氏消防団長を退任
昭和53年 3月1日	3代目消防団長に榊原孫七氏就任
昭和63年	海上分団に消防車両が配備され、全消防分団に消防車両が配備された
平成元年 1月31日	榊原孫七氏消防団長を退任
平成元年 2月1日	4代目消防団長に岩田忠兵衛氏就任
平成7年 3月3日	四日市市消防団・四日市市消防本部連名で、消防庁長官表彰を受章
平成9年 1月31日	岩田忠兵衛氏消防団長を退任
平成9年 2月1日	5代目消防団長に後藤正義氏就任
平成13年 7月31日	後藤正義氏消防団長を退任
平成13年 8月1日	6代目消防団長に堀善澄氏就任
平成17年 2月7日	四日市市と楠町の合併に伴い、四日市市消防団と四日市市楠消防団の2団制をとる
平成17年 9月1日	港分団を廃止し、女性消防団員15名による「サルビア分団」を結成
平成18年 2月24日	四日市市消防団が、消防庁長官から「消防団地域活動表彰」（団員確保功労）を受賞
平成22年 4月1日	四日市市消防団と四日市市楠消防団を四日市市消防団として一団化した 一団化に伴い、14分団で増員をするとともに機能別団員を採用し、定員を620名とした
平成22年 10月1日	7代目消防団長に稲垣貢氏就任
平成25年 8月1日	8代目消防団長に伊藤忠夫氏就任

歴代四日市市消防団長

代	氏名	在職期間
初	九鬼 紋十郎	昭和23年 9月29日 ~ 昭和24年 8月10日
2	大野 正平	昭和24年 8月11日 ~ 昭和53年 2月28日
3	榊原 孫七	昭和53年 3月 1日 ~ 平成元年 1月31日
4	岩田 忠兵衛	平成元年 2月 1日 ~ 平成9年 1月31日
5	後藤 正義	平成9年 2月 1日 ~ 平成13年 7月31日
6	堀 善澄	平成13年 8月 1日 ~ 平成22年 8月29日
7	稲垣 貢	平成22年10月 1日 ~ 平成25年 7月31日
8	伊藤 忠夫	平成25年 8月 1日 ~ 現在

歴代四日市市楠消防団長

代	氏名	在職期間
初	橋本 巳貴也	平成17年 2月 7日 ~ 平成22年3月31日

消 防 団 の 概 況

(平成27年4月1日現在)

分 団	区 分	人 員							消 防 車		
		合 計	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長		団 員	
四 日 市 市 消 防 団	合 計	620	1	4	26	26	56	109	398	29	
	団 本 部	60	1	4			2	8	45	3	
		サ ル ビ ア 分 団	15			1	1	1	2	10	
	北 ブ ロ ッ ク	羽 津 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		富 田 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		富 洲 原 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		大 矢 知 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		八 郷 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		下 野 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		保 々 分 団	22			1	1	2	4	14	1
	中 ブ ロ ッ ク	橋 北 分 団	17			1	1	2	3	10	1
		海 蔵 分 団	17			1	1	2	3	10	1
		海 上 分 団	17			1	1	2	3	10	1
		常 磐 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		三 重 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		神 前 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		川 島 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		県 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		桜 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		塩 浜 分 団	17			1	1	2	3	10	1
	南 ブ ロ ッ ク	日 永 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		河 原 田 分 団	17			1	1	2	3	10	1
		内 部 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		四 郷 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		小 山 田 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		水 沢 分 団	22			1	1	2	4	14	1
		北 楠 分 団	37			1	1	4	7	24	2
	南 楠 分 団	27			1	1	3	5	17	1	

四 日 市 市 消 防 団 員 の 状 況

職業別消防団員数

(平成27年4月1日現在)

団員数 (人)	職業別	農業	建設業	製造業	電気 ガス 熱供給 水道業	運輸 通信業	卸売 小売業 飲食業	金融 保険業	サービス業 不動産業	公務	その他
	578		28	71	208	17	41	64	5	61	21

消防団員の年齢別状況

平均年齢 45才

(平成27年4月1日現在)

階級	区分 総数	18~20才	21~25才	26~30才	31~35才	36~40才	41~45才	46~50才	51~55才	56才以上
		578	3	15	27	47	85	121	107	74
団長	1									1
副団長	4									4
分団長	26						1	2	2	21
副分団長	26						2	3	4	17
部長	56					1	9	17	6	23
班長	109				3	10	21	33	29	13
団員	356	3	15	27	44	74	88	52	33	20

消防団員の在職年数状況

平均勤続年数 12年

(平成27年4月1日現在)

階級	区分 総数	5年未満	5年以上 ~ 10年未満	10年以上 ~ 15年未満	15年以上 ~ 20年未満	20年以上 ~ 25年未満	25年以上 ~ 30年未満	30年以上
		578	129	162	65	77	57	40

消 防 団 員 出 動 状 況

(平成26年度)

区分		月別											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
計	回数	222	172	333	485	202	134	277	326	216	169	112	199
	人員	1,130	970	2,185	3,859	1,645	894	1,766	1,999	1,566	1,466	920	1,307
災 害 出 動	回数	0	0	0	0	77	0	56	2	0	1	0	0
	人員	0	0	0	0	653	0	420	10	0	17	0	0
災 害 出 動 (4時間未満)	回数	32	18	22	20	23	5	49	10	19	8	27	15
	人員	217	144	190	171	201	42	354	49	155	86	235	105
警 戒	回数	11	0	0	1	0	0	0	0	61	5	0	0
	人員	74	0	0	7	0	0	0	0	604	28	0	0
訓 練	回数	6	27	130	206	27	25	29	91	12	46	16	12
	人員	48	146	734	1,633	202	209	242	744	99	526	103	109
広 報 活 動	回数	10	4	3	6	5	3	5	46	5	2	2	52
	人員	75	30	13	40	36	28	32	339	22	21	18	334
警 防 調 査	回数	7	7	5	4	6	8	5	15	6	7	8	12
	人員	45	50	30	24	33	52	31	108	47	40	59	123
会 議	回数	50	47	19	6	7	32	23	28	4	8	2	28
	人員	75	67	35	21	25	53	35	40	25	26	10	41
研 修	回数	55	11	14	0	1	1	17	23	0	3	5	1
	人員	143	29	25	0	15	4	103	74	0	8	13	1
消 防 用 件	回数	9	13	96	210	17	18	54	74	67	51	15	34
	人員	28	83	740	1,639	115	109	178	240	218	354	95	158
ポ ン プ 点 検	回数	42	45	44	32	39	42	39	37	42	38	37	45
	人員	425	421	418	324	365	397	371	395	396	360	387	436

消 防 団 訓 練 ・ 研 修 実 施 状 況

種 別	実 施 機 関	期 間	参加人員
幹 部 科	消 防 本 部	4月10日	54名
初任科及び機関員科	各 消 防 署	4月13、20日、4月27日	76名
普 通 科	三重県消防学校	6月14日 ～ 6月15日 (2日間)	1名 (保々分団員)
分団指揮課程指導員科	三重県消防学校	9月6日 ～ 9月7日 (2日間)	1名 (日永分団員)
現場指揮課程	三重県消防学校	9月27日 ～ 9月28日 (2日間)	1名 (川島分団員)
水 防 研 修	各 消 防 署	6月1日 ～ 6月22日	154名
応 急 手 当 指 導 員	各 消 防 署	5月、6月、11月 (サルビア適宜)	10名
防 災 訓 練	四 日 市 市	9月28日他	約606名
規 律 訓 練	各 消 防 署	11月	323名
春・秋の火災予防運動訓練	各 消 防 署	3月1日 ～ 3月7日	名
		11月9日 ～ 11月15日	5名
文 化 財 防 火 デ ー	各 消 防 署	1月23日、24日、26日	合計 5名 18名

サルビア分団活動状況

四日市市消防団の女性消防分団（以下 サルビア分団）は、平成17年9月に、消防団の活性化対策の一助とするために結成されました。

主に火災予防啓発活動を行っており、具体的には、幼児を対象として行う大型紙芝居や小・中学生を対象として防火教室、防災教室、応急手当普及講習などの訓練指導を中心に活動しています。男性の団員とは違い、災害出動はしませんが、女性ならではの、きめ細かでソフトな対応能力を活用し創意工夫をしながら減災活動に取り組んでいます。

サルビア分団年間活動状況	平成26年度（回／年）
予防広報（大型紙芝居を含む）	47回

消防団防災支援隊の登録状況

「災害」への備えとしては、被害の発生を防ぐ「もの」の備えと、被害は出てもその拡大を防ぐ「ひと」・「こと」の備えが必要であるといわれています。特に大規模災害が発生した場合には、地域における消火・救助・避難誘導等の防災活動が被害の拡大を食い止めるために重要になってきます。

そのため、四日市市として安全で安心して暮らせるまちづくりの推進事業の一環として、四日市市消防団から退職されました団員の消火技術や防災の知識・技術・経験を活かし、消防分団及び自主防災隊が行う消防・防災活動をボランティアで支援する四日市市消防団防災支援者制度を創設したものです。

登録状況

平成27年4月1日現在 166名